

田んぼのトンボ

菅野正寿

六月の終わりの なまあたたかい初夏の朝

僕は棚田に水を引くため あぜ道をいく すると

稲の葉から ヒラヒラと 羽化したトンボが飛び立った

一つや二つではない 二十羽 五十羽 いやいやもっと飛び立った

ヒラヒラ ヒラヒラ やわらかな羽が 朝陽に輝き銀色に光ってる

僕はあぜ道に立ちつくす なんて美しいんだろう

稲の葉と葉の間には くもが糸をはる タガメがいる カマキリがいる

カエルが足元で飛びはねる 田んぼは小さな生命の世界

暑い夏に里山に上り 自由に空を飛ぶ

稲穂が黄金色になるころ トンボはつがいでふるさとに帰ってくる

穂波に小川に産卵をする

田んぼから飛んだので トンボというのだ